

ナガサキアゲハ 越冬の記録

広畑政己

兼ねてより屋外で放置していた6頭のナガサキアゲハの蛹が、4月29日より5月2日にかけて下記の通り羽化した。

29 IV 1977 1♂2♀
1 V 1977 1♂
2 V 1977 1♀

6頭の蛹の内1蛹だけが2月20日ごろより変色を始め、結局は羽化には至らなかった。

1976～1977年にかけての冬期気温は、表1の通り例年になく厳しいもので、ナガサキアゲハの蛹化したミカンは枯死し、見るも無残な姿となった。

従来ナガサキアゲハの兵庫県下本州側に於ける越冬の為に第1条件として、気温が挙げられていた。ナガサキアゲハが越冬した今年の冬期気温は、累年平均(23年間の平均)と比較すると、12月で0.9°C低く、1月で0.8°C、2月で2°C低くなっている。特に12月26日から1月8日までの14日間は、-3.1°C～-5.2°C、2月1日～2月9日までの9日間は、-3.6°C～-5.4°C、また2月15日～2月19日までの5日間は、-6.1°C～-7.8°Cという寒波にみまわれた。羽化に至らなかった蛹は一頭でもあり断言はできないが、変色の時期から考え、2月15日～2月19日まで続いた-6.1°C以下の寒波に耐えられなかったのではないだろうか。しかしながら5頭が羽化したことなどから考えれば、表2に示した程度の気温であるなら、充分越冬できるものと思われる。

1977年5月上旬に赤穂市にてナガサキアゲハの♀が目撃されており、県下本州側でもここ数年赤穂市を中心とした地域では、土着しているのではないかとと思われる。ただ土着していたとしても、まだ初期の段階で個体数も少なく、天敵、食樹その他の要因で、また見られなくなるというようなことも考えられる。ともかく6頭の蛹の内5頭が屋外で越冬し、羽化したことを、越冬した期間の気温(表2)を添えて報告する。

(S. 28:姫路市)

表1 年代別最低平均気温(°C)

	累年平均	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年
1月	-1.0	-0.8	1.7	0.8	-1.8	-0.9	-1.6	-1.8
2月	-0.6	-0.4	1.5	1.3	-1.0	-1.1	1.6	-2.6
12月	1.3	0.8	1.8	-1.5	1.8	1.0	0.4	-

姫路測候所調べ

表2 越冬期間中の気温(°C)

	最低平均 気温	極直	0°C以下 日数
12月	0.4	-5.2	12
1月	-1.8	-5.4	24
2月	-2.6	-7.8	22

姫路測候所調べ(1976～1977年)

ベニカミキリの越冬

西高生物部

1977年2月6日増位山の随願寺前にある宝生池の横に、竹やぶがあります。その竹やぶは竹のサクで囲まれています。サクといっても、ほとんど崩壊しかけています。サクの横木となっている最上段の竹は地上から約70cmぐらいのところであって、ところどころにカミキリムシが出たと思われる穴があいていました。ぼくたちはその竹の中にベニカミキリの冬越しを見つけました。それは、竹の表面の硬いところと、空洞の間の部分がほろほろに土のようになっていて、その中にもぐっていました。おおむね竹の中心に背を向けて表面に近いところにいました。

その竹を4mほど破壊して全部の冬越ししているそれを取りだしてみたところ♂27頭、♀23頭の計50頭が確認できました。ほとんどの個体がひげにまだ黄色の膜が残っていました。羽化後すぐに越冬したと思われます。

天気は曇り時々晴れ。気温はわかりませんでしたが目安として宝生池に厚さ2.5cmぐらいの氷がはっていました。